

巻頭言

学部長からのメッセージ

最近、看護学に関連する学会が激増している感がある。2017年度に国内で開催された看護学に関する学会・学術集会数は、全国で130を超えている。これらに、小規模の学術集会、研究発表会などを加えると、軽く200は超えるだろう。しかも、看護学の研究者が関連する学会・学術集会はこれにとどまらない。看護学は、医学・公衆衛生学、社会学、教育学、工学、経済学、法学など多くの学術分野とも関連が深く、それらの学会・学術集会への看護学研究者の参加も含めると、看護学に関連する学会・学術集会の数は数え切れない程多くなる。

このような学会・学術集会の活発な活動は、果たして看護学の発展に寄与しているのだろうか。例えば、看護学に人間工学を組み合わせた研究、医療経済に関連した看護学研究などはすでに多くの研究が存在している。これらの研究成果は、多くの看護学研究に示唆を与えたり、導きをしてくれたりしてきた。さらに、看護学の臨床における活用もされてきている。このように、看護学は多くの学祭的研究に支えられて、発展してきており、今後もこの傾向は継続すると考える。

他方、看護学の研究科はすでに多くの大学で設置されており、2017年4月現在、日本看護系大学協議会に加盟している265の大学では、修士課程175、博士課程97が設置されている。このうち、修士課程の87課程(49.7%)は平成10年から19年の間、74課程(42.3%)は平成20年以降の設置である。看護学の研究科の90%以上が、まだ設置後20年未満であり、歴史はまだ浅い。最近でも、看護学の研究科を設置する動きは非常に活発である。研究科では、研究者の育成、そして看護学の研究を実践に活用する高度な看護実践者の育成、教育者の育成にと、それぞれの目的をもって、教育研究を行っている。

このような社会の動きの中、摂南大学では、2016年4月に、摂南大学大学院看護学研究科を設置した。2018年3月には、第1回の修了生が誕生する。教育課程には、薬学研究科、理工学研究科、経営経済学研究科など、摂南大学大学院の多くの研究科の協力を得て、幅広い研究分野の授業科目を配置することができた。例えば、薬学治療、フィジカルアセスメント、チーム医療など医療に関連する科目は勿論であるが、看護人間工学、災害、医療経済学などの科目である。大学院生は、研究においてもこれら科目を担当する教員からのアドバイスを受けることが可能であり、幅広い視野にたつて、研究を遂行することができる。

「摂南大学看護学研究」は、大学院生が論文を発表する機会になる。大学院生は、修士課程での研究を学会・学術集会に発表し、さらに完成した修士論文を発表するといった過程での学びも大きい。さらに、普段、疑問に思っていることを研究課題として明確化するために、文献レビューや実践報告をする場合があるが、これらも論文、報告や資料として「摂南大学看護学研究」に掲載することが可能である。

今後、大学院生、若手の研究者が、論文発表の機会として、「摂南大学看護学研究」を積極的に活用することを期待し、「摂南大学看護学研究」がますます発展することを願っている。

2018年2月 看護学部長 後閑容子